

有限会社 鈴木紙工

2024 年度 環境経営レポート (対象期間:2024年 1月～2024年12月)



作成日：2025年1月20日
更新日：2025年1月20日

環境経営方針

＜環境理念＞

当社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減に努力し、更なる業務改善を進める中で社会的責任を果たしてまいります。当社は段ボールケース、包装用資材および農業用資材の提供を通しての環境影響を低減し、更なる業務改善を推進するため次の方針を掲げます。

1. 当事業所の活動、サービスに係る環境影響を常に認識し、環境汚染の予防を推進すると共に、環境経営の継続的改善を図ります。
2. 当事業所の活動、サービスに係る環境関連法令、その他の要求事項を順守します。
3. 廃棄物の削減(コピー用紙のリサイクル率の向上)に努めます。
4. 水使用量の削減(節水)に努めます。
5. CO₂の削減に努めます。
6. 物品購入の際は、グリーン購入に努めます。
7. 製品を設計する際に、原材料のロスを最小限に抑えるように努めます。
8. この環境方針を全従業員に周知する。

制定日： 2008年9月15日

代表取締役社長 鈴木 茂実

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

有限会社 鈴木紙工
代表取締役社長 鈴木 茂実

(2) 所在地

本 社 千葉県船橋市金杉1丁目8番3号
第2工場 千葉県船橋市金杉3丁目19番6号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 工場長 柏崎 俊介 TEL : 047-438-3853
担当者 代表取締役 鈴木茂実 FAX : 047-438-2354

(4) 事業内容

段ボール箱の製造及び販売、包装資材販売、農業資材販売
主要製品：ダンボールケース、緩衝材、パック、梱包テープ等

(5) 事業の規模

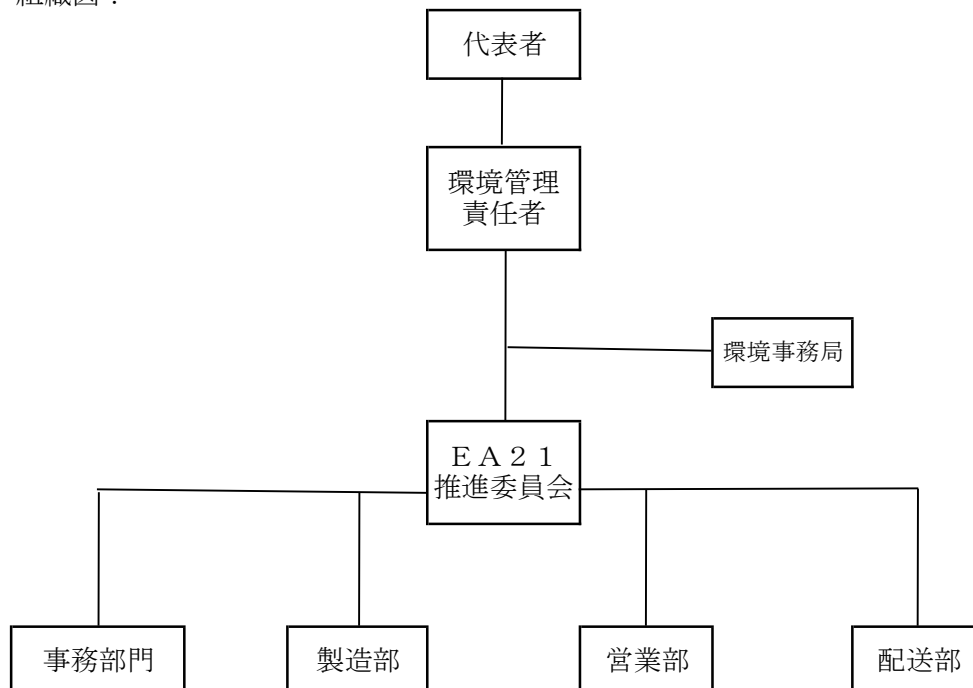
主要製品生産量	3341t	
	本社	第2工場
従業員	25名	6名
延べ床面積	1019㎡	825㎡

(6) 事業年度 1月～12月

□認証・登録の対象組織・活動

認証・登録番号：0003466
認証・登録年月日：2009年3月31日
認証登録事業者名：有限会社鈴木紙工
所在地：千葉県船橋市金杉1-8-3
事業活動内容：段ボールの製造販売，包装資材販売，農業資材販売

組織図：



□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	135,006	132,519	133,581
廃棄物排出量	t	153	189	168
一般廃棄物量排出	t	1.19	1.48	1.27
産業廃棄物排出量	t	152	188	167
総排水量	m ³	298	346	376

□環境経営目標及びその実績

項 目		年 度	基準値 (2022年)	2024年	2024年 (目標比)
			(基準年度)	(目標)	(実績)
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂		67,104	66,836	66,208
	Kwh		141,272	140,707	139,386
	原単位		118.90	118.42	128.78
	基準年比		(2022年)	99.60%	108.75%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂		65,415	65,154	66,547
	L		25,830	25,726	26,252
	原単位		115.91	115.45	129.44
	基準年比		(2022年)	99.60%	112.12%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂		132,519	131,990	132,755
一般廃棄物の削減	t		1.49	1.48	1.52
	原単位		2.63	2.62	2.95
	基準年比		(2022年)	99.60%	112.60%
産業廃棄物（古紙、廃油 等）削減	t		188.06	187	162
	原単位		3.33	3.32	3.14
	基準年比		(2022年)	99.60%	94.58%
節水	m ³		346	345	247
	原単位		0.61	0.61	0.48
	基準年比		(2022年)	99.60%	78.69%
グリーン購入				エコ商品の購入推進	エコ商品の購入推進
製品への環境配慮				原材料のロスを最小限に抑え	原材料のロスを最小限に抑える

※電力の二酸化炭素排出係数は0.475kg-CO₂/kW hを使用しています。
 （東京電力エナジーパートナー(株)・H28年度調整後排出係数）

□中期環境経営目標

5年後までに原単位を1%削減する

	基準原単位 (2022年)	2023年目標 (基準値比－0.2%)	2024年目標 (基準値比－0.4%)	2025年目標 (基準値比－0.6%)	2026年目標 (基準値比－0.8%)	2027年目標 (基準値比－1%)
電力の二酸化炭素排出量削減 累計 (kg-CO ₂) ÷ 累計製造数 (㎡) × 10000で算出	118.9	118.66	118.42	118.19	117.95	117.71
自動車燃料の二酸化炭素排出削減 累計 (kg-CO ₂) ÷ 累計製造数 (㎡) × 10000で算出	115.91	115.68	115.45	115.21	114.98	114.75
一般廃棄物の削減 累計 (kg) ÷ 累計製造数 (㎡) × 10000で算出	2.630	2.624	2.619	2.614	2.609	2.604
産業廃棄物削減 累計 (t) ÷ 累計製造数 (㎡) × 100000で算出	3.330	3.323	3.317	3.310	3.303	3.297
節水 累計 (m ³) ÷ 累計製造数 (㎡) × 10000で算出	0.610	0.609	0.608	0.606	0.605	0.604

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○ままだきた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価（結果と次年度の取組内容）
電力による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標		□上方修正 □下方修正 ■基準通り	
・照明器具については定期的に清掃、交換する。	△	継続実施	工場内コンプレッサ排気熱を暖房に利用できるように工事を行う。
・冷暖房終了時間前に熱源機を停止し、装置内の熱を有効利用する。	△	同上	
・コピー機、パソコン、プリンター等のOA機器については、エネルギー効率の高い機器を導入する。	△	同上	
・空調を必要な区域・時間に限定する。	○	同上	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標		□上方修正 □下方修正 ■基準通り	
・タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正値を保つ。	○	継続実施	遠方の納品を協力会社に委託して走行距離の削減を目指していきたい。人員を増員し配送ルート効率化を図る。
・排気ガス・騒音レベルを抑えるため適正な車両整備を行う。	○	同上	
・バッテリーフォークリフト導入の検討をする。	△	同上	
一般廃棄物の削減			
数値目標		□上方修正 □下方修正 ■基準通り	
・会議用資料や事務書類の簡素化に取り組む。	○	継続実施	5S活動の導入を検討する
・社内LAN等の利用による文書の電子化に取り組む。	○	同上	
・打ち合わせや会議資料等はホワイトボードやプロジェクターの利用により、ペーパーレス化に取り組む。	△	同上	
産業廃棄物（古紙・廃油）削減			
数値目標		□上方修正 □下方修正 ■基準通り	
・設計段階で落としの良い取り都合を心掛ける。	○	継続実施	継続していく
・品質劣化等による不良在庫を減らすため、在庫の適正化等在庫管理を徹底する。	△	同上	
・1ロット当たりの予備シート枚数を見直し	○	同上	
節水			
数値目標		□上方修正 □下方修正 ■基準通り	
・洗浄工程の改善	○	継続実施	継続していく
グリーン購入			
・再生材料から作られた製品を優先的に購入、使用する。	○	継続実施	継続していく
・コピー用紙、トイレットペーパー他、紙について再生紙、または未利用繊維への転換を図る。	○	同上	
・燃費の良い自動車の採用	○	同上	
製品への環境配慮			
・製品を設計する際に原材料のロスを最小限に抑えるように努める。	○	継続実施	FSC認証製品を推進していく
・客先で古紙のリサイクル推進	△	同上	
・段ボールリサイクルマーク表示推進	△	同上	
・商品のバラ売りから纏め売りへの推進	△	同上	
・会社周辺の清掃活動	○	継続実施	継続していく
・町会清掃参加	○	同上	

□法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属ガス、廃プラスチック、廃ガラス、廃油、汚泥）
騒音・振動規制法(市条例)	空圧機、送風機
自動車リサイクル法	営業用乗用車、トラック

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

2024年は機械設備更新準備の年でした。2025年1月の設備導入に伴い不要物を整理したため、一般産業廃棄物が増加したと思われます。業界として2～8%の生産減なので電力のCO2削減に関しては「達成した」というより「減少してしまった」が正しいと思われます。また、昨今のコストアップ対策として段ボールの需要が小さい箱より大きい箱にたくさん詰めて運搬する方針に切り替わっており、電力や自動車燃料のCO2排出量の原単位増加につながっています。ただし、2024年問題に関しては、ドライバーの離職や長労働時間問題に直面することもなく安定供給できる体制を維持できました。新設備導入により製造時間短縮が可能になるので2025年からコスト効率の良い配送を心がけましょう。

□環境活動の紹介

FSC認証(認証番号:C190139)取得日:2023年5月17日

フードバンク船橋に段ボール資材の提供をしフードロスへの取り組みを継続的に行っている。